

# ルーマニア

Romania

	2011年	2012年	2013年
①人口：2,131万人（2013年）			
②面積：23万8,391km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：8,910米ドル （2013年）			
④実質GDP成長率（%）	2.3	0.6	3.5
⑤消費者物価上昇率（%）	5.8	3.3	4.0
⑥失業率（%）	7.4	7.0	7.3
⑦貿易収支（100万ユーロ）	△7,394	△7,379	△3,425
⑧経常収支（100万ユーロ）	△5,924	△5,843	△1,517
⑨外貨準備高（100万米ドル、 期末値）	42,939	41,162	44,811
⑩対外債務残高（グロス） （100万ユーロ、期末値）	75,929	78,760	76,894
⑪為替レート（1米ドルにつき、 レイ、期中平均）	3.0486	3.4682	3.3279

〔注〕⑤：年平均、⑦⑧：国際収支ベース、⑦：財のみ  
〔出所〕①②④⑥⑦：ルーマニア国家統計局、③⑨⑩：IMF、⑤⑧⑩：ルーマニア中央銀行

2013年のルーマニア経済は3.5%成長と3年連続のプラス成長となった。輸出は輸送用機器を中心に10.0%増、輸入は鉱物の減少により1.0%増にとどまり、貿易赤字は40.8%減少した。対内直接投資は18.3%増の約26億3,500万ユーロで、2年連続で増加した。対日貿易は輸入減により1989年の体制転換後で初めての貿易黒字に転じた。日系製造業の新規進出は2件で工場拡大の動きもあった。

## 工業回復により5年ぶりの高い伸び率

2013年の実質GDPは前年比3.5%増と、2008年（7.3%）に次ぐ成長率を記録した。GDPを需要項目別にみると、財貨・サービスの輸出がプラス成長に大きく貢献した。民間最終消費支出も年後半にプラスに転じ、成長に寄与した。一方、国内総固定資本形成は公共投資の削減により3.3%減となり、押し下げ要因となった。

GDPを産業別にみると、外需の回復で工業が8.0%増と2012年の1.2%減から一転、プラス成長となった。農林水産業は、2012年に干ばつの影響で24.6%減少したが、2013年は好天に恵まれ、23.4%増と高い伸びに転じた。公務員給与引き上げや法定最低賃金引き上げによる所得拡大もまた、民間最終消費支出を押し上げた。

一方、企業倒産は前年比3.2%増の2万3,208社となり、失業率も2012年の7.0%から7.3%へと悪化した。消費者

物価上昇率は4.0%にとどまった。上半期にはインフレ傾向が強まったものの、農産物価格の低下や9月から実施されたパン・小麦粉等への付加価値税（VAT）率の引き下げ（24%→9%）が抑制要因となったためである。ルーマニア中央銀行は、金融緩和のため、たびたび政策金利の引き下げを実施し、11月には過去最低水準となる4.0%にまで引き下げた。

政府は、2014年の実質GDP成長率を2.2%と見込んでいる。

## 乗用車と穀物輸出の好調で、輸出拡大

2013年の貿易赤字は、前年比40.8%減の57億400万ユーロへと縮小した。輸出が前年比10.0%増の495億6,400万ユーロと過去最高を記録したのに対し、輸入が1.0%増の552億6,800万ユーロにとどまったためである。

輸出を品目別にみると、最大品目である機械・電気機器（構成比25.2%）は、点火用配線セットが前年比8.7%増、自動車用エンジンが3.6倍となり、全体で9.0%増の124億6,600万ユーロとなった。重点分野の輸送用機器（17.0%）は、乗用車が25.7%増、自動車部品が21.7%増となり、全体では23.4%増の84億3,500万ユーロだった。乗用車は、ルーマニアに生産拠点を持つ完成車メーカーのダチア（フランスのルノー傘下）お

表1 ルーマニアの需要項目別実質GDP成長率

	2012年	2013年	2013年			
			Q1	Q2	Q3	Q4
実質GDP成長率	0.6	3.5	2.1	1.4	4.2	5.4
民間最終消費支出	1.5	0.9	△0.1	△0.4	0.9	2.9
政府最終消費支出	0.7	△1.7	1.3	△5.8	△6.9	3.8
国内総固定資本形成	3.8	△3.3	△9.5	△2.2	△2.1	△2.6
財貨・サービスの輸出	△1.5	13.5	8.0	8.6	20.3	16.6
財貨・サービスの輸入	△0.2	2.4	△0.1	△3.4	8.0	5.0

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比かつ季節調整値。

〔出所〕ルーマニア国家統計局

表2 ルーマニアの主要品目別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2012年	2013年			2012年	2013年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・電気機器	11,433	12,466	25.2	9.0	14,547	15,209	27.5	4.5
輸送用機器	6,834	8,435	17.0	23.4	4,085	4,309	7.8	5.5
自動車・トラクター	5,773	7,075	14.3	22.5	3,827	4,028	7.3	5.3
金属	5,138	4,751	9.6	△7.5	5,838	5,907	10.7	1.2
繊維	3,619	3,736	7.5	3.2	3,511	3,641	6.6	3.7
植物性生産品	1,970	2,990	6.0	51.8	1,416	1,458	2.6	2.9
穀物	1,336	1,985	4.0	48.6	373	328	0.6	△12.1
プラスチック・ゴム製品	2,557	2,797	5.6	9.4	3,907	4,025	7.3	3.0
鉱物	2,611	2,698	5.4	3.3	7,129	5,844	10.6	△18.0
化学品	2,390	2,218	4.5	△7.2	5,638	5,833	10.6	3.5
合計(その他含む)	45,070	49,564	100.0	10.0	54,704	55,268	100.0	1.0

[注] EU域外貿易は通関ベース(輸出はFOB、輸入はCIF)、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

[出所] ルーマニア国家統計局

よびフォード(米国)の輸出台数が合計約36万台となり、比較できる2007年以降で最高を記録した。部品では、ダチアが完成車組み立て部品を、フォードがエンジンの量産を開始(2012年)している。その他、植物性生産品(6.0%)は、穀物が48.6%増加し、全体で51.8%増加した。

輸出を国・地域別で見ると、全体の69.4%を占めるEU27向け輸出は前年比8.8%増の343億9,400万ユーロだった。中でも、輸出三大相手国であるドイツ(構成比

18.6%)、イタリア(11.5%)、フランス(6.8%)のいずれも2012年の前年比減から増加に転じた。ユーロ圏(構成比51.1%)は8.7%増となり、2012年の3.5%減から増加となった。ドイツ向けは自動車部品が26.1%増、乗用車が37.1%増加し、全体で9.4%増。イタリア向けは履物が10.6%増加し、全体でも4.8%増となった。非ユーロ圏では、英国(4.1%)向けで、乗用車が3.5倍となり、全体で25.4%増となったが、これにはダチア車の英国での販売開始が寄与したとみられる。EU27以外では、トルコ(5.1%)向けは乗用車が68.0%増加し全体で3.4%増となった。これは、ルーマニア南部にあるダチアのミオベニ工場で輸出向け「ルノー・シンボル」の生産が開始され、トルコもその輸出先となっていることによる。中国向けは木材が46.3%増、また、フォードによるエコブースト(燃費と排気ガスの排気量を考慮した)エンジンの輸出開始により、自動車用エンジンが急増(130倍)し、全体で29.4%増加した。

表3 ルーマニアの主要国・地域別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2012年	2013年			2012年	2013年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	31,602	34,394	69.4	8.8	40,173	41,783	75.6	4.0
ユーロ圏	23,289	25,316	51.1	8.7	28,108	29,522	53.4	5.0
ドイツ	8,412	9,200	18.6	9.4	9,531	10,306	18.6	8.1
イタリア	5,440	5,699	11.5	4.8	5,985	6,071	11.0	1.4
フランス	3,148	3,358	6.8	6.7	3,092	3,171	5.7	2.6
オランダ	1,280	1,538	3.1	20.2	1,918	2,036	3.7	6.2
スペイン	1,108	1,207	2.4	9.0	1,300	1,299	2.4	△0.1
オーストリア	1,029	1,177	2.4	14.4	2,283	2,208	4.0	△3.3
非ユーロ圏	8,313	9,078	18.3	9.2	12,065	12,261	22.2	1.6
ハンガリー	2,410	2,452	4.9	1.7	4,919	4,554	8.2	△7.4
英国	1,621	2,032	4.1	25.4	1,308	1,253	2.3	△4.2
ブルガリア	1,731	1,697	3.4	△2.0	1,531	1,524	2.8	△0.5
ポーランド	1,083	1,171	2.4	8.1	2,333	2,457	4.4	5.4
チェコ	806	987	2.0	22.6	1,341	1,497	2.7	11.6
トルコ	2,462	2,545	5.1	3.4	1,842	1,869	3.4	1.5
ロシア	1,052	1,382	2.8	31.3	2,392	2,359	4.3	△1.4
ウクライナ	842	964	1.9	14.5	501	457	0.8	△8.7
米国	859	825	1.7	△3.9	818	626	1.1	△23.5
中国	385	498	1.0	29.4	2,094	1,969	3.6	△6.0
韓国	376	458	0.9	21.8	395	382	0.7	△3.3
ブラジル	171	283	0.6	65.6	356	327	0.6	△8.2
日本	213	232	0.5	9.3	263	218	0.4	△17.3
インド	213	230	0.5	7.9	367	306	0.6	△16.5
カザフスタン	86	39	0.1	△54.1	2,276	1,786	3.2	△21.5
合計(その他含む)	45,070	49,564	100.0	10.0	54,704	55,268	100.0	1.0

[注] EU域外貿易は通関ベース(輸出はFOB、輸入はCIF)、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

[出所] ルーマニア国家統計局

## 燃料の輸入が大幅減

輸入を品目別にみると、最大品目である機械・電気機器(構成比27.5%)は、主力の携帯電話が12.0%増加したものの、発電機部品が34.1%減少し、全体では前年比4.5%増の152億900万ユーロだった。鉱物(10.6%)は、その93.1%を占める燃料が18.8%減少し、全体でも18.0%減の58億4,400万ユーロだった。これは、価格上昇による消費抑制や産業ガス需要の減少により、天然ガス消費量が減少していることなどが主因。

輸入を国・地域別にみると、輸出と同様にEU27が最大の輸入相手で、輸入全体の75.6%を占め、417億8,300万ユーロだった。上位輸入相手

国であるドイツ（構成比18.6%）、イタリア（11.0%）、ハンガリー（8.2%）の3カ国で全体の37.8%を占める。最大輸入先のドイツからは発電機部品が51.9%減少したが、最大品目の自動車部品が19.3%増となり全体で8.1%増となった。ハンガリーからは天然ガスが77.8%減少し、全体で7.4%減、フランス（5.7%）からは自動車用エンジンの輸入は3.5倍となり全体で2.6%増となった。EU域外では、ロシア（4.3%）からの天然ガスが51.0%減少し、全体で1.4%減、中国（3.6%）からは携帯電話部品が47.6%減少し、全体で6.0%減となった。

## ■ 対内直接投資が2年連続で増加

ルーマニア中央銀行によると2013年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比18.3%増の26億3,500万ユーロと、2年連続で増加した。なお、対外直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、9,000万ユーロの引き揚げ超過だった。

対内直接投資について中央銀行および統計局はともに、2013年の国・地域別および業種別などの投資額の詳細を発表していない（2014年6月現在）。このため、2012年末時点の投資残高591億2,600万ユーロの内訳でみると、EU15からの投資額が全体の約80%を占める。上位3カ国はオランダ（構成比22.4%）、オーストリア（18.5%）、ドイツ（11.0%）の順である。

表4 ルーマニアの対内直接投資<国際収支ベース、ネット、フロー>

（単位：100万ユーロ）

2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
3,550	2,236	1,838	2,228	2,635

〔出所〕ルーマニア中央銀行

表5 ルーマニアの主要対内直接投資案件（2013年1月～2014年4月）

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
自動車関連	ダイムラー	ドイツ	2014年4月	3億ユーロ	トランスミッションの生産能力拡大を図ると発表
石油	ガズムナイガス	カザフスタン	2013年8月	1億800万ドル	完全子会社ロムベトロルのペトロメディア石油精製所を近代化
機械機器	ルフキン・インダストリーズ	米国	2013年6月	1億2,500万ユーロ	石油採掘ポンプの生産工場を開設
エネルギー	サムスン物産	韓国	2013年10月	9,000万ユーロ	スロボジアに設備容量45メガワットの太陽光発電所を建設
自動車部品	ボッシュ	ドイツ	2013年11月	7,700万ユーロ	研究開発センターを開設、新工場の試運転を開始
小売り	キングフィッシャー	英国	2013年5月	3,500万ポンド	プリコストア（DIY）15店舗を買収
自動車部品	ダイムラー	ドイツ	2013年7月	4,000万ユーロ	工場拡張のため子会社スター・トランスミッションに資金投入
石油	OMVペトロム	オーストリア	2013年7月	4,000万ユーロ	ペトロブラジ精製所に脱硫システムを導入
自動車部品	コンチネンタル	ドイツ	2013年10月	4,000万ユーロ	電気式燃料ポンプおよび燃料供給装置の生産工場を建設
自動車関連	ダチア（ルノー傘下）	フランス	2014年2月	3,500万ユーロ	ティトゥ市に排ガス規制ユーロ6向けエンジンのテストセンターを建設予定
電気	アーチェリック	トルコ	2013年10月	3,000万ユーロ	既存工場の生産能力を拡張
産業機器	テナリス・シルコトゥブ	アルゼンチン	2013年11月	n.a.	シームレスパイプ工場拡張

〔出所〕各社発表および報道などから作成

2013年発表の主な投資案件は次のとおり。ダイムラー（ドイツ）は、ドイツ工場では対応しきれない分をルーマニアで生産するため、子会社スター・トランスミッションに4,000万ユーロを投入し、工場を拡張した（2013年7月）。エネルギーでは、サムスン物産（韓国）が、孫会社を通じ、9,000万ユーロを投じて、スロボジアに設備容量45メガワットの太陽光発電所を建設した（2013年10月）。機械機器では、ルフキン・インダストリーズ（米国）がプロイエシュティに1億2,500万ユーロを投資し、石油採掘ポンプの生産工場を開設した（2013年6月）。カザフスタンの石油・ガス会社ガズムナイガスは、ロムベトロルのペトロメディア石油精製所を近代化すべく、総額1億800万ドルを投資した。オーストリアの石油大手OMV傘下のOMVペトロムは、ペトロブラジ精製所に脱硫システムを導入した（4,000万ユーロ）。自動車関連では、ドイツのボッシュが、7,700万ユーロを投じて、研究開発センターを開設し、新工場の試運転を開始した。同じくドイツ自動車部品のコンチネンタルは、電気式燃料ポンプおよび燃料供給装置の生産工場を建設した（4,000万ユーロ）。トルコからの投資では、家電のアーチェリックが、3,000万ユーロを投じて、既存工場の生産能力を拡張した。また、英国の小売りキングフィッシャーは、3,500万ポンドでプリコストア（DIY）15店舗を買収した。

2014年の発表案件では、フランス自動車大手ルノー傘下のダチアが、3,500万ユーロを投入して、向こう2年での排ガス規制ユーロ6向けエンジンのテストセンター建設を発表した（2014年2月）。ダイムラーは同子会社を通じて、新工場を建設すると発表した（2014年4月）。投資額は3億ユーロ。

一方、撤退企業もある。消費財卸業のレッケルラント

表6 ルーマニアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年	2013年				2012年	2013年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
木材・木炭	140	177	76.2	26.6	機械・電気機器	117	102	46.8	△12.8
植物性生産品	39	22	9.3	△44.1	電気機器	70	62	28.3	△11.6
穀類	38	22	9.3	△43.2	原子炉・ボイラー・機械類	47	40	18.6	△14.4
プラスチック・ゴム	4	6	2.5	44.2	輸送用機器	62	50	23.0	△19.8
ゴム	3	3	1.3	19.7	プラスチック・ゴム	30	29	13.4	△3.4
機械・電気機器	5	6	2.5	22.7	ゴム	15	16	7.2	3.8
電気機器	2	4	1.6	99.3	金属	33	18	8.3	△45.0
原子炉・ボイラー・機械類	3	2	0.9	△27.2	鉄鋼製品	16	7	3.0	△59.1
繊維・衣料品	5	5	2.0	△1.3	鉄鋼	5	3	1.4	△42.3
衣類	4	4	1.5	△3.7	ニッケル	0	2	0.8	672.2
履物・帽子・傘	4	4	1.5	△15.3	金属製工具	6	1	0.6	△76.4
金属	4	3	1.1	△35.9	化学製品	6	7	3.1	5.0
輸送用機器	1	2	1.1	128.6	光学機器・精密機器	8	5	2.5	△34.3
合計 (その他含む)	213	232	100.0	9.3	合計 (その他含む)	263	218	100.0	△17.3

[出所] ルーマニア国家統計局

(ドイツ) は販売不振のため国内支店を閉鎖した。2012年の売上高は約1億レイ (2,300万ユーロ) だった。

### ■鉄鋼・自動車部品の輸入減で貿易黒字に

2013年の対日輸出は前年比9.3%増の2億3,200万ユーロ、輸入は17.3%減の2億1,800万ユーロとなり、貿易収支は1,400万ユーロで、1989年の体制転換後、初めて黒字に転じた。

輸出を品目別にみると、木材・木炭 (構成比76.2%) は26.6%増だった。植物性生産品 (9.3%) はトウモロコシが61.3%減少したが、2012年まで輸出されていなかった小麦・メスリンが牽引し、全体で44.1%減となった。

輸入を品目別にみると、機械・電気機器 (46.8%) のプラスチック製電気絶縁品が2.3倍となったが、電気回路関連機器が28.5%減少し、全体としては12.8%減となった。輸送用機器 (23.0%) は、自動車部品が28.1%減少し、全体で19.8%減、金属 (8.3%) は鉄鋼が42.3%減、鉄鋼製品が59.1%の大幅減となり、全体でも45.0%減少した。

### ■日系製造業の新規工場建設も

2013年の日系製造業の新規進出は2社だった。うち1社は、東海ゴムで、2013年5月、自動車用防振ゴム製造のアンビス (ドイツ) を買収し、ルーマニア国内の1工場を傘下に収め、工場の拡張を進めている。他の1社は、三井化学で2013年7月、ヘレウス (ドイツ) の歯科材料事業を買収し、ルーマニア国内で2014年に生産を開始する。

ジェットロ・ブカレスト事務所の調査によると、2014年4月末時点の日系製造業では本社ベースで19社、現地法人ベースで26社、雇用人数は合計で約3万2,000人であった。

製造業以外では、電通が2013年5月、IT企業のキネクト・インターナショナルを買収した。

2014年発表の投資案件では、自動車部品製造のGMBが2014年3月、アルジェシュ県にウォーターポンプ生産工場を建設すると発表した。